

ポジション別の理想像を得る

背景

バスケットには主に3つのポジションがあり、それぞれに適したプレーがある。それを、プロの試合から特徴を見つけ、自分たちのプレーに生かす。

目的

ポジション別の適したプレイを知り、試合に生かす。

研究方法

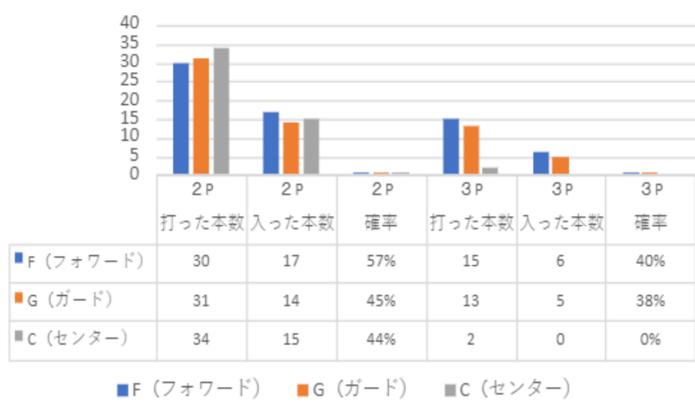
対象は 琉球 VS 宇都宮 である。

方法①：ポジション別（ガード、フォワード、センター）のシュート本数について調べる。

方法②：エリアごとの確率を知る。

方法③：アシスト・ターンオーバーの数を調べる。

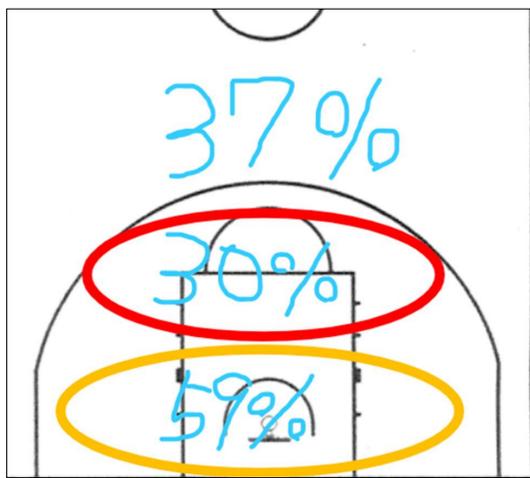
シュート本数・入った本数



- 2Pは打った本数も、入った本数もさほど変わらない。
- 3PはF,Gは変わらないが、Cは打っていない。

↓

どのポジションもシュートを狙う必要がある。そして2Pは40%を超えるシュート力が必要。3PはCにはあまり必要がなく、F,Gには約30%のシュート確率が必要。

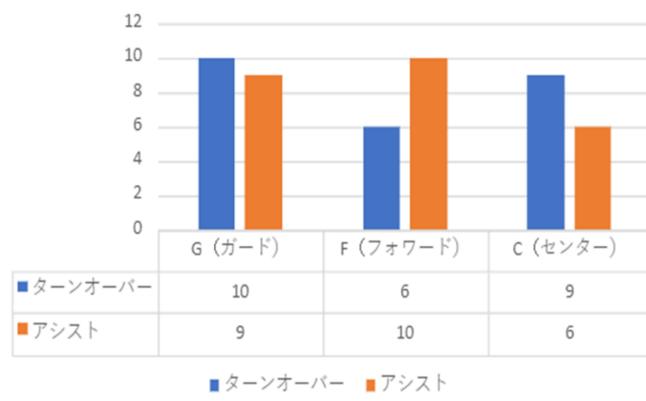


- 3Pは37%、アウトサイドは30%、インサイドは59%とゴール下は確率が高く、2番目に近いアウトサイドは30%と一番低くなっている。

↓

ゴール下は外国人のセンタープレイなので比較的確率が高い。アウトサイドの確率が低いのはディフェンスが密集していてチェックが強いからだと考えられる。それに比べ、3Pはチェックが弱いので比較的確率が高いと考えられる。

ターンオーバー・アシスト数



- Fはアシストが多い。
- 全般的にターンオーバーが7、8回である。

↓

ボールを持つ回数が多いGターンオーバーを10回以内に抑える必要がある。F、Gも10回以内が良い。アシストも7、8回できるとよいとわかる。

結論

【ガード】

2P、3Pを狙い、アシストを増やしながらゲームをコントロールする。

【フォワード】

2P、3Pを積極的に狙いチームの得点源になるようにする。

必然とボールを持つ回数が増えるので、ターンオーバーが増えないようにするのがカギとなる。

【センター】

2Pを主に狙い、安定し得点できるようにする。フォワード同様ターンオーバーをなくすることが重要である。

【全体】

確率を見た限り、アウトサイドでシュートを打つのは、できれば避けたほうが良い。

逆に、ディフェンスはアウトサイドで打たすようにすればよい。

ターンオーバーを毎回チームで10回以内、個人で2回以内になるようにすればよい。